# 校長室だより

松江東高等学校

第１（71）号

令和５年４月１４日

## ○「始業式講話」 ※入学式式辞等のベースとした講話で一部を加筆修正

創立４０周年を迎える令和５年度が始まりました。新年度を迎え、生徒のみなさんには気持ちもあらたに、松江東高校のグランドデザインの核となっている言葉、「自立への道程」を「師弟同行」で「ともがら」を大切に歩んでいってほしいと思います。

この「自立への道程」という言葉は、永瀬元校長先生が掲げられた当時の学校の合い言葉です。ちなみに、グランドデザインとは、松江東高校が目指す姿を示したもので、学校の特色などをわかりやすく図にしたものです。

永瀬元校長先生は、この合い言葉について、校長として赴任された時、次のように話されています。

自立は、自ら立つと書くが、自らを律する自律も含んでいる。道は、単なる道でなく過程を大切にしてほしいと思い道程（みちのり）とした。合い言葉に込めた思いは、みなさんに「自立した１８歳」としてこの東高を卒業してほしいから。どういう姿が自立した姿なのかは自分自身で考えてもらいたい。考えることが充実した高校生活の第一歩となる。みなさんの多くは大学などの上級学校に進学し、社会に出るのは１０年近く先のこと。１０年で社会は大きく変わる。みなさんが生きて行かなくてはいけない社会はこれまでとは大きく違う。そこには正解があって、指示を待っていれば、指示通りに動いていけば何とかなる社会ではない。答えのない課題を自ら探して、他人と協働して解決して行く力が求められている。その力を養っていくのが高校での教育活動であり、「自立への道程」でもある・・・そのように、言葉に込めた思いを話されたと聞いています。

これからの社会で求められるもっとも大切な力の一つを、私なりに簡単に表現するならば、レゴ型の力だと思っています。パズル型の力でなく、レゴ型の力。いち早く正解にたどり着くナンバーワンが良いとされた社会から、今は創造力を駆使して、また仲間と協働してオンリーワンを生み出すことが求められる社会になってきています。パズルには唯一絶対の解があり、完成形は一つです。レゴはどんな形でもつくることができます。大きくも小さくもできます。そこに唯一絶対の解はなく、無限大の解が存在します。

松江東高校で教頭をしていた私も、２年前に校長になった時に、合い言葉を掲げました。「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志　～自立した大人となるために～」です。思いは同じなので、この「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」という言葉を添えて松江東高校でもみなさんとやっていきたいと思っています。「自立への道程」を進む中でどういう姿勢や心構えで高校生活を送って欲しいかを示しています。それが、「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」です。

「小さな挑戦」とは、明日の自分に会うのが楽しみになるような小さな挑戦に取り組んでもらいたいということです。小さいことでもかまわないから、昨年より、昨日よりここを変えよう、このことに挑戦してみようと日々考え取り組むことです。勉強時間を５分増やしてみるなどなんでもいいのです。挑戦しないと前

には進みません。自分を成長させるために何が必要かを考え、じっくり取り組むことがそれぞれの自立への道程につながるはずです。

「小さな気遣い」とは、エンゼルスの大谷選手がグランドの小さなゴミを拾うような、誰かのためになるほんの小さなボランティアや気配りです。また、そうした行動がすべてではなく、自分の心に少しの余裕を持つことも含みます。余裕がないと気遣いもできません。周りも見えてきません。もちろん自分自身のことも。小さな気遣いをすることで、相手を思いやる気持ちにつなげて欲しいという意味を込めました。それを行動に移せればベストですが、必ずしも直接的な行動でなくてもいいです。例えば、手話を少し覚えてみる。それは聴覚障がいの人に思いをはせた気遣いで、すぐには役に立たないかもしれませんが、思いやりや気遣いの気持ちを育むことにつながり、結果的に自分の成長にもつながります。教室で友だちに呼ばれて席を立つとき、椅子をしまう余裕を持つ。エレベーターで閉まるボタンを押さない余裕を持つ。それは自分の心に余裕も持つことになるし、見えない誰かの事故防止にもつながります。コロナ禍では、大きな声を出すことやマスクをはずしての会話は自粛が求められてきました。このため、相手の言うことが聞こえにくいことはしばしばです。しかし、聴覚障がいがある人に思いをはせてみてください。声が出せない人もいます。多文化共生・多様性の意味を考えることも小さな気遣いです。

気遣いがこまやかにできる人には応援する人が増えていきます。それは自分の財産になります。挨拶は気遣いの第一歩です。挨拶がしっかりできる学校は、地域の人が応援してくれます。一肌脱いでくれます。部活動も同じです。挨拶の良い部活動は応援してもらえます。それがプラスアルファの力となっていきます。有名なマラソンランナーでさえ沿道の応援が後押しになったと言います。挨拶は人間力、社会力をも培うもっとも大事なふるまいです。これはしっかり意識して実践してください。

心の余裕を持つには、心を整えることも大事です。昔サッカーの長谷部選手の本の題名にもなりましたが、もの事に向かう時には、心が整っていなければ決していい結果は得られないし、何かを吸収しようとする時にも心が整っていなければ入ってきません。部活動の勝負の場面ではよく言われますが、決してそこだけではなく、授業や集会・式典でも一緒です。松江東高校では式典や授業の前に黙想している意義はそこにあります。

最後に「大きな志」です。札幌農学校のクラーク博士の「少年よ！大志を抱け」の言葉にも込められたように、先が見えにくい状況だからこそ、見失わない大きな志をもって努力を積み重ねて欲しいと思います。

大きな志は、人生を五重の塔で表現すれば柱を建てる礎石にあたる部分です。土台となる部分が学力、社会力、人間力です。土台が大きければ大きいほど、大黒柱である柱を建てる大きな礎石がおけるし、柱が大きくなる分、建物となる人生の豊かさは増し、自己実現もできていきます。勉強、部活、ボランティアなどにしっかり取り組み人生の土台をしっかりつくってください。

みなさんの可能性は無限大です。私たち教職員は、みなさんの可能性を高め、広げるための努力を惜しみません。小さな挑戦、小さな気遣いがもたらす小さな成長を見つめ、支援していきます。東高風に言えば、「チームともがら」でしょうか。これから一年間「チーム東高」でがんばりましょう。